

資料4 評価グリッド

タイ生産性向上プロジェクト・フォローアップ終了時評価調査

評価項目	確認事項	情報源	調査結果
1. 目標達成度			
1-1 成果の達成状況（量的な達成状況）及び達成阻害要因	<p>1-1.0 プロジェクト実施（FTPIの組織体制の整備）</p> <p>1-1.01 人員配置の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FTPIの組織が構築される ・ FTPIの総職員数が増加する ・ FTPIのC/Pの人数が増加する <p>1-1.02 財政基盤の確立</p> <p>1-1.03 年間活動計画の策定と実施</p> <p>1-1.04 プロジェクトの運営管理体制</p>	<p>FTPI報告書（組織図・配員表） FTPI専門家へのインタビュー</p> <p>FTPI報告書（年次決算報告書、財務報告書）政府助成実績報告書、業務受注実績報告書（民間企業並びに政府機関より受注分）、政府・FTPI・専門家へのインタビュー、</p> <p>FTPI報告書（年次活動活動計画書、年次事業計画書、年次活動報告書、年次事業報告書） FTPI、専門家へのインタビュー</p> <p>ステアリング・コミッティー開催実績要約及び報告書</p>	<p>1-1.01 プロジェクト実施体制として Consulting Division 及び Training Division が deputy Executive Director の直下に設けられた（組織図参照）。 職員数 148名 C/Pは増減はあったが38名が養成され内13名が退職したため最終的には25名のC/Pが充足された</p> <p>1-1.02 財政的には現在約2億バツの資金積立が実現しており、年間活動費を十分カバー出来る財源が確保されている。一方顧客からのサービス引合いも引き続きおり、当面財政的危惧はない。政府の基本方針であるタイ国全土、全企業への生産性向上の普及・促進については、その具体的実施計画次第（政府関連事業は一般的に報酬が廉価であり、このウエイトが増大すると現時点では採算性が悪くなる）ではコンサル・サービスによる FTPI の収入減を来たす可能性もあり、FTPI の自立のためには政府よりの妥当な金額による業務発注等の何らかの政府による助成が必要になる場面も有り得る。</p> <p>1-1.03 2001 年度においては政府の現方針の大幅な変更がない限り計画の実施に困難は無い。</p> <p>1-1.04 steering / Working 両 Committee がそれぞれの役割に応じて相互に連携し、プロジェクトの遂行に大いに貢献した。Steering committee は 199 年 1 月 19 日の第 1 回からほぼ 3 ヶ月毎に 2000 年 11 月まで計 9 回開催された。</p>

	<p>1-1.1 FTPI のカウンターパートが生産性コンサルティング技術に関する知識を習得する</p> <p>1-1.11 シニア・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.12 アソシエイト・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.13 ジュニア・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.14 C/P の知識・能力の評価</p> <p>1-1.15 共同開発されたマニュアルの数・質</p>	<p>C/P Development Program 質問表 FTPI 報告書(C/P レベル別到達度表、評価一覧表), FTPI、専門家へのインタビュー</p> <p>FTPI 幹部、専門家へのインタビュー</p> <p>FTPI 幹部、専門家へのインタビュー、マニュアル・リスト</p>	<p>1-1.1 C/P 及び企業へのインタビューを通じて、十分な技術移転が実現したとの評価を得た。</p> <p>1-1.11 計画人数 9人/ 養成人数 8人/ 最終人数 8人</p> <p>1-1.12 計画人数5人/ 養成人数11人/ 最終人数 7人</p> <p>1-1.13 計画人数5人/ 養成人数 3人/ 最終人数 0人</p> <p>1-1.14 FTPI、顧客、専門家での評価は高く、十分である</p> <p>1-1.15 FTPI、専門家、C/P、企業の CSK 分野での質的評価は高い。15本、計310ページのマニュアルが共同開発され、その過程での技術移転は非常に有効であったとの評価を得た。</p>
	<p>1-1.2 FTPI のカウンターパートが生産性向上を進めるための人材育成・労使関係の知識を習得する</p> <p>1-1.21 シニア・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.22 アソシエイト・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.23 ジュニア・レベルの C/P の人数</p> <p>1-1.24 共同開発されたマニュアルの数・質</p>	<p>C/P Development Program 質問表 FTPI 報告書(C/P レベル別到達度表、評価一覧表), FTPI、専門家へのインタビュー</p> <p>C/P 配員記録表</p>	<p>1-1.2 C/P 及び企業へのインタビューを通じて、十分な技術移転が実現したとの評価を得た。</p> <p>1-1.21 計画人数 4人/ 養成人数 4人/ 最終人数 4人</p> <p>1-1.22 計画人数1人/ 養成人数 6人/ 最終人数 4人</p> <p>1-1.23 計画人数5人/ 養成人数 3人/ 最終人数 1人</p> <p>1-1.24 FTPI、専門家、C/P、企業の HRD/LMR 分野での質的評価は高い。3本、計127ページのマニュアルが共同開発され、その過程での技術移転は非常に有効であったとの評価を得た。</p>

<p>1-2 プロジェクトの目標達成状況</p>	<p>1-2.1 生産性コンサルティング技術分野・人材育成・労使関係分野のカウンター・パート育成</p> <p>1-2.11 C/Pの育成はタイ側、日本側の十分な意思疎通の下で実施される</p> <p>1-2.12 タイ企業への訪問がなされ、企業の現状分析、ベンチ・マークが行われる</p> <p>1-2.13 OJTが行われ、実践的な能力が習得される</p>	<p>ステアリング・コミッテイ、ワーキング・コミッテイ開催・議事記録</p> <p>企業訪問記録・報告書</p> <p>OJT実施記録・報告書</p>	<p>1-2.11 FTPI、専門家両者より、全く問題なく運用され十分機能したとの評価を得た。</p> <p>1-2.12 企業での評価は非常に高く、計画通りの成果が達成された。</p> <p>1-2.13 OJTによるC/Pの実践的能力向上はC/P、顧客、FTPIへのインタビューで、高い評価で確認された。</p>
	<p>1-2.14 OJT実施企業におけるC/Pの生産性向上活動に対する評価</p> <p>1-2.15 企業において養成されたファシリテーター数</p>	<p>顧客へのインタビュー</p> <p>質問表、顧客へのインタビュー</p>	<p>1-2.14 生産現場での実践的なコンサルテーションは顧客から高く評価されており、十分な満足を得ている</p> <p>1-2.15 数については計画どおり養成され、今後の企業内での活動が大いに期待されているが、企業によってはその資質の点で不安を持つ所もある。これら企業では新しい従業員の採用・配置に際しその資質・経験を更に重視したいが、企業の財政面・規模・知名度等から困難を伴うとの危惧が述べられた。10社で計94名のファシリテーターが養成され配属された。</p>

評価項目	確認事項	情報源	調査結果
2. 効果（インパクト）			
2.1 直接的効果 （「プロジェクト目 標」レベル）	2-1.0 プロジェクトの活動により、企 業にどのような効果（プラス、 マイナス）がもたらされたか	企業へのインタビュー）	2-1.0 顧客からはプラスのインパクトのみであり、その大きさについては、企業 により当然の事ながらその評価は異なる。
2-1.1 製造業の生産性向上 に対するプロジェク トの貢献度	2-1.1 プロジェクトの活動によっても たらされた効果を企業がどのよ うに評価するか	企業へのインタビュー	2-1.1 非常に高く評価しており、大いに感謝されている。
2-1.2 生産性向上普及活動 に対するプロジェク トの貢献度	2-1.2 対象企業での生産性が向上す る	質問表または政府、FTPI、専門 家、顧客へのインタビュー	2-1.2 総じて大きく貢献したとの評価であったが、定量的に当該プロジェクト活 動より生じた成果を成果全体から区別する事が難しい場面が多い。
	2-1.3 今後も FTPI に業務を依頼し たいと思うか	顧客満足度調査（FTPI の調査） 顧客企業・政府・FTPI へのイ ンタビュー、	2-1.3 全体として今後是非契約したいとの希望は強いが、企業規模・財政状態に より直ちに契約が出来ない顧客もある。契約対価に何らかの政府助成を求め る声もあった。
	2-1.4 外部機関からの FTPI に対す る技術評価	World Bank その他の調査報告 書、評価報告書	2-1.4 世界銀行・国際研究機関による調査結果並びに顧客へのインタビューによ り、タイ国内では第一位のコンサルテーション・機関であるとの評価を得て いる。しかしながら FTPI としてはコンサルティング分野並びに技術内容の 深さに更なる進歩・発展を望んでいる。

2-2. 間接的効果 (「上位目標」レベル) 2-2.1 FTPI 活動の企業への普及・浸透	2-2.11 IRP の下での FTPI の活動が直接、企業の生産性の向上に貢献したか	FTPI 報告書 FTPI の IRP 活動実績報告書、 FTPI、C/P、専門家へのインタビュー	2-2.11 FTPI、企業による直接的な貢献を高い評価で認めている。3 つの分野で計 96 社に対しサービスの提供を行った。
	2-2.12 FTPI の組織としての評価	政府・FTPI へのインタビュー、	2-2.12 生産性向上活動のタイ国内企業への普及・浸透政策の実施機関として、その役割を十分に果たしている。
	2-2.13 プロジェクトによる人材育成が FTPI の事業収入増加に貢献したか	政府・FTPI 幹部へのインタビュー 収支実績報告書	2-2.13 FTPI で養成された C/P の能力は非常に高く評価されており、今後継続してサービスを受けたいと希望する顧客は多く、FTPI の事業収入増加の大きな柱となっている。
	2-2.14 生産性向上活動を開始した企業数	政府・顧客・C/P へのインタビュー、 質問表、FTPI 報告	2-2.14 FTPI、C/P、顧客へのインタビューによると、FTPI によるコンサルテーションを受けた顧客は、すべて（今回調査対象は 4 社に限るが）生産性向上活動を開始している。
	2-1.15 C/P の生産性向上活動に対する企業の評価（認知度、相談件数）	政府、FTPI、企業、C/P、専門家へのインタビュー	2-1.15 企業の評価は高く、今回訪問調査した 4 社の顧客並びにコンサル実施対象外の企業からの新規契約依頼・問い合わせが多くなりつつある。
	2-1.16 企業の生産性向上活動に対する FTPI の役割（FTPI の 6 つのミッションの機能）	FTPI 報告 政府、FTPI、企業、C/P、専門家へのインタビュー	2-1.16 第 9 次国家社会経済 5 年計画の中のただ 1 つの国家生産性戦略計画実施国家機関として IRP 活動を通して生産性普及活動を実施し、タイ国企業の競争力を強化する。
	2-2.17 FTPI が関わった生産性向上普及活動	FTPI 報告 政府、FTPI、C/P、企業、専門家へのインタビュー	2-2.17 OJT、企業訪問の対象企業へのコンサルテーションを通じて、経営者、管理職、現場従業員への普及・浸透が図られ、企業における生産性向上の成果はタイ国内企業に広く理解され始めた。
2-2.2 環境面へのイン	2-2.21 生産性向上技法の環境への影響	FTPI 報告、政府、FTPI、C/P、企業、専門家へのインタビュー	2-2.21 特に認められない
	2-2.22 生産性向上による産業振興の環境へのインパクト	FTPI 報告、政府、FTPI、C/P、企業、専門家へのインタビュー	2-2.22 特に認められない
2-2.3 企業の労働条件等へのインパクト	2-2.31 プロジェクトの実施により、企業の人事・給与システム及び労使関係などに何らかの変化がもたられたか	FTPI 報告、政府、FTPI、C/P、企業、専門家へのインタビュー	2-2.31 コンサルテーションを受けた企業では、システム確立の必要性・重要性を十分認識し、その体系確立に着手しており、企業の合理化による利益向上が労使共通の課題であるとの認識が強まり、相互の意思疎通が改善された結果、労使関係にも前進が認められる。（主として顧客へのインタビューによる）

評価項目	確認事項	情報源	調査結果
3. 効率性			
3-1 投入のタイミングの 妥当性			
3-1.1 日本側 専門家の派遣 研修員受入 機材供与 その他	3-1.11 専門家の派遣が適切に行われ たか	日本側投入実績 プロジェクト四半期報告書、 FTPI, C/P、専門家へのインタ ビュー	3-1.11 FTPI, C/P、専門家へのインタビューで、適切であったと確認された。長期 専門家 4名、短期専門家 6名
	3-1.12 研修員の受入が適切であった か	受入研修実績 FTPI, 専門家へのインタビュー	3-1.12 同上、計 13名
	3-1.13 機材供与が計画どおり行われ たか	機材供与実績報告 FTPI, 専門家へのインタビュー FTPI 報告書、四半期報告書、FTPI, 専門家へのインタビュー カウンター・パート採用実績報告 書	3-1.13 計画内容通りの供与が予定されている。マニュアルの提供は CSK 分野 で 16 本、計 580 ページ、HRD/LMR 分野で 6 本、計 645 ページ。書籍・ヴ ィデオテープ計 ¥1,035,000 相当
3-1.2 タイ国側 土地、施設、機材の処置	3-1.21 新事務所への移転はスムーズ に行われたか	FTPI, C/P、専門家へのインタヴ ュー	3-1.21 FTPI, 専門家へのインタビュー結果、問題なく実施されたと確認された。
カウンター・パートの 配置	3-1.22 カウンター・パートの新規補 充が適切であったか		3-1.22 問題なし。(結果的には 実質 13名の退職となったが、新規補充がな され、FTPIの事業活動に大きな支障はなかった。)
ローカル・コストの負 担	3-1.23 ローカルコストの負担は支障 なかったか	タイ側プロジェクト経費実績報 告書 FTPI, C/P、専門家へのイ ンタビュー	3-1.23 専門家へのインタビューで問題なしが確認された。FY1999—2001 の間に計 B3,973,000
その他			

3.2 投入と成果との関係	3-2.1 日本側	専門家の派遣	3-2.11 専門家達の指導による C/P の知識・技術習得が成果の達成に寄与する (OJT による技術移転の実績)	プロジェクト主要活動一覧表、座学のカリキュラム及び実施単位数一覧表、C/P 評価結果一覧表、OJT 実績報告書) FTPI・C/P、専門家へのインタビュー	3-2.11 専門家による指導はクラスルーム/OJT の両方で非常に効果的に実施され、特に OJT での企業現場における実践的指導は C/P 達の知識・技術向上に大きな成果をもたらした。その結果、FTPI の C/P に対する顧客の評価は非常に高まり、高い顧客満足度をもたらした。
		研修員受入	3-2.22 本邦研修が行われ、新規採用の C/P がシニア・レベルに達する	受入研修報告書、C/P 評価結果一覧表	3-2.22 新規採用に際し、能力・経験に十分な配慮がなされたが、FTPI の限界がある中で、33人中 12人がシニアとなった。
		機材供与	3-2.23 関連分野の書籍・ビデオが供与され成果の達成に寄与する	供与機材リスト	3-2.23 1,035,000 相当
		その他			

<p>3-2.2 タイ国側</p> <p>土地、施設、機材の処置</p> <p>カウンター・パートの配置</p> <p>ローカル・コストの負担</p> <p>その他</p>	<p>3-2.21 土地・施設・機材の処置は適切に行われ、プロジェクト運営体制が強化される</p> <p>3-2.22 計画数どおりのシニア・C/P の人員が養成され、計画達成のための環境が維持される</p> <p>3-2.23 ローカル・コストの負担が適切に行われる</p>	<p>FTPI 報告書、FTPI ・専門家へのインタビュー</p> <p>FTPI 報告書 (C/P 配置実績表) FTPI ・C/P、専門家へのインタビュー</p> <p>タイ側プロジェクト経費実績報告書</p>	<p>3-2.21 特になし。(事務所移転はスムーズに行われた) 事務所用設備・AO 機器が計約 50 点投入された。</p> <p>3-2.22 計画時の目標は CSK で 10 名 (内部長 1 名、実質 9 名)、HRD/LMR で 4 名であったが結果的には FTPI のシニア数が CSK で 8 名、HRD で 4 名と計画より 1 名減となったが、FTPI の事業活動に大きな支障とはならなかった。</p> <p>3-2.23 FTPI、専門家へのインタビューで、適切に行われた事を確認した。投入額は事務所賃貸料 1999 年度、約 831060、2000 年度で 683563、パーツ、用益費として 1999 年度約 721668、2000 年度 266992、パーツ、運転手手当てが 1999 年度、2000 年度共に 420000 パーツとの報告あり、</p>
<p>3-3 他の協力形態とのリンク</p>	<p>3-3.1 APO の専門家派遣・研修員受入がプロジェクトを補完する</p>	<p>APO 実績報告書</p>	<p>3-3.1 FTPI、専門家とのインタビューで補完への貢献を確認した。</p>

評価項目	確認事項	情報源	調査結果
4. 妥当性			
4.1 上位目標の妥当性 受益者ニーズとの整合性	4-1.1 FTPI を通じて生産性向上活動がタイ企業に普及浸透する事は政策面から見て妥当な目標か	政府へのインタビュー、質問表	4-1.1 FTPI は NPSP の立案・実施機関の一つとして位置付けられており、プロジェクトの上位目標は政府政策面から見て妥当である。
開発政策との整合性	4-1.2 FTPI を国の生産性センターとする位置付けは政府の政策と合致しているか	政府へのインタビュー、質問表	4-1.2 同上
	4-1.3 タイの企業が外部からのコンサルテーションを積極的に受けるようになる	FTPI、専門家へのインタビュー、質問表	4-1.3 コンサルテーションを受けた顧客による評価は非常に高く、現に積極的な継続契約を希望する顧客が大半である。またその評価に基づき新規企業からの引合い・問い合わせも多い。
	4-1.4 「生産性向上と生産工程の改善」という IRP の重点項目にプロジェクトは貢献したか	IRP 実行計画書、政府・FTPI へのインタビュー	4-1.4 コンサルテーションはこの重点項目を中心に実施され、現実に成果上昇に貢献した。
4.2 プロジェクト目標の妥当性 上位目標との整合性	4-2.1 プロジェクト目標が上位目標と整合する	PDM、政府・FTPI・専門家へのインタビュー	4-2.1 F/U プロジェクトの結果養成された FTPI に C/P によるコンサルテーションが実施され、生産性向上活動がタイ国内企業に普及・浸透されつつあるので、十分な整合性が保たれている。
実施機関の組織ニーズとの整合性	4-2.2 プロジェクト目標は FTPI のニーズに合致したか	FTPI 報告書、政府・FTPI へのインタビュー、	4-2.2 FTPI の役割は生産性向上活動の実行であり、F/U プロジェクトによるシニア・コンサルタント C/P の育成は、このニーズに合致している。
	4-2.3 F/U による FTPI の機能が強化される		育成された優秀な C/P により、FTPI が求められているタイ国企業での生産性向上機能は著しく強化された。
政府政策との整合性	4-2.4 政府の中小企業振興政策方針との整合性	政府中小企業振興事業計画	4-2.4 NPSP、IRP 活動の実施機関として政府政策と十分整合している。

<p>4.3 上位目標、プロジェクト目標、成果及び投入の相互関連性に対する計画設定(プロジェクト・デザイン)の妥当性</p>	<p>4-3.1 プロジェクト・デザインは妥当であったか</p> <p>4-3.2 主として生産現場での改善に焦点をあてた本プロジェクトの協力は妥当であったか。他に取り上げてもらいたい分野はあったか。あったとしたらどのような分野か。</p>	<p>政府・FTPI・C/P・専門家へのインタビュー、質問表</p> <p>政府、専門家、C/P、FTPI・企業へのインタビュー、プロジェクト活動実績報告書</p>	<p>4-3.1 F/Uのプロジェクト・デザインは、計画目標、成果、投入の相互関連性において、十分妥当であった。</p> <p>4-3.2 生産性向上活動を生産現場の改善から開始した事は、企業の収益性向上に直接貢献するものであり、成果の確認が比較でき容易であるため、企業による生産性向上活動の重要性の理解を容易にし、その普及・浸透に一層の貢献をしたため、本プロジェクトの協力は妥当であった。</p> <p>FTPIとしては、今後企業全体の経営管理、国際企業における異文化混在の中での労務人事管理、TQM等高度なレベルでのコンサルテーション技術の習得・養成が必要となろう。</p>
<p>4.4 妥当性を欠いた要因</p>	<p>4-4 妥当性を欠いた要因はあったか</p>	<p>FTPI幹部へのインタビュー</p>	<p>4-4 なし</p>

評価項目	確認事項	情報源	調査結果
5. 自立発展性 5-1 組織的側面	5-1.1 FTPI の IRP における今後の位置付け。 5-1.2 タイ政府における FTPI の将来の位置付け 5-1.3 FTPI の National Productivity Strategic Plan における役割 5-1.4 FTPI が同戦略の実施機関の一つとなる 5-1.5 FTPI の人材流出防止策	FTPI、専門家、政府へのインタビュー、IRP 活動実施報告、質問表 質問表 政府、FTPI、専門家へのインタビュー NPSP、 政府・FTPI、C/P、専門家へのインタビュー NPSP 実施計画書、NPSP 実施組織図 質問表、FTPI、C/P、専門家へのインタビュー	5-1.1 今後も活動の中心となることを求められている。 5-1.2 生産性向上活動の実施機関として今後の活動の継続を期待されている。 5-1.3 計画・実施機関の一つとして今後の活動継続を期待されている。 5-1.4 既にその位置付けで活動が実施されている。 5-1.5 現在米国のコンサル会社に FTPI 従業員の処遇、給与体系等につき調査を依頼中で 2001 年 4 月には結果が報告される予定。但し育成された C/P の流出は、転職先での生産性向上に貢献しているので、国家レベルでの生産性向上にロスとなったとは考えない。
5-2 財務的側面	5-2.1 FTPI の財政的安定性 5-2.2 FTPI に対する政府の財政支援見通し	政府助成金打ち切り通知書、(FTPI 予算、決算実績報告) 政府方針通達書類、FTPI 事業計画書 FTPI、政府へのインタビュー、FTPI 事業計画書、	5-2.1 取りあえず独立採算の見通しが目処がたっている。 基金の積み増しを行っている。顧客からの新規・継続の契約要請が多い。 FTPI の収支バランスは、項目別詳細資料を要請中だが、全体で見ると、1999 年度で 1 億 5 千 6 百万バーツ、2000 年度で 7 千 2 百万バーツの黒字、2001 年度予測では 2 千 2 8 万バーツの赤字との報告もある 5-2.2 独立採算をもとめられているが、政府政策であるタイ国中小企業振興政府関連事業における生産性向上活動に対しては、FTPI の財政的安定性を考慮した妥当な対価でのサービス契約がなされるよう政府に提案中。

<p>5-3 技術的側面</p>	<p>5-3.11 CSKにおいて育成されたシニア・レベル・コンサルタントはプロジェクトの自立発展の観点からみて質・量共に十分で、かつ後進の指導を行う予定になっているか</p> <p>5-3.12 HRD/LMRにおいて育成されたシニア・レベル・コンサルタントはプロジェクトの自立発展の観点からみて質・量共に十分で、かつ後進の指導を行う予定になっているか</p> <p>5-3.2 プロジェクトで移転した技術がFTPIの事業の拡大、サービスの質的向上につながる見通し</p> <p>5-3.3 外部に対する生産性向上のためのサービスが継続して実施される</p>	<p>FTPI 報告書 (C/P レベル別到達度表) 政府・FTPI, 専門家へのインタビュー 業務受注実績表 後進指導計画 FTPI 活動実績報告書、</p> <p>FTPI 報告書 (C/P レベル別到達度表) 政府・FTPI, 専門家へのインタビュー 業務受注実績表 後進指導計画 FTPI 活動実績報告書</p> <p>政府・企業へのインタビュー (FTPI の技術力評価) 業務受注予測 プロジェクト終了後の FTPI 事業計画 (C/P 養成計画) 企業へのインタビュー (業務発注の可能性) 政府へのインタビュー (FTPI に対する政策面)</p>	<p>5-3.11 既存顧客による高い評価が新規顧客を生じている。タイ大手企業、在タイ日系企業からの引合いが多い 日系企業からの受注獲得しており、この意味でもシニア・コンサルタントの評価は高い。他のコンサルテーション機関 (TAI, タイ一日経済技術振興協会) との比較においても、FTPI に対する顧客の満足度は非常に高い。既に育成された分野では質・量共に十分であるが、今後新規のサービスが求められる高度なプロセス改善技術等のコンサルテーション分野では更に高度なコンサルタントの育成が期待されている。シニアレベル・コンサルタントによる後進指導も実務を通して可能なレベルに達している。</p> <p>5-3.12 既存顧客による高い評価が新規顧客を生じている。タイ大手企業、在タイ日系企業からの引合いが多い 日系企業からの受注獲得しており、この意味でもシニア・コンサルタントの評価は高い。他のコンサルテーション機関 (TAI, タイ一日経済技術振興協会) との比較においても、FTPI に対する顧客の満足度は非常に高い。既に育成された分野では質・量共に十分であるが、今後新規のサービスが求められる TQM, 国際化の中での異文化の下での労務管理技術等のコンサルテーション分野では更に高度なコンサルタントの育成が期待されている。シニアレベル・コンサルタントによる後進指導も実務を通して可能なレベルに達している。</p> <p>5-3.2 IRP 活動及び企業へのコンサルテーション・サービスが FTPI の C/P 自身の手で実施可能な技術レベルに達しており、FTPI 事業の拡大及び提供したマニュアル類と OJT 等による実地のコンサルテーション経験を中心に C/P 達によるサービスの質的向上は十分期待できる。</p> <p>5-3.3 IRP 活動及び顧客からの契約要請等より今後外部へのサービス継続に大きな問題はない。</p>
------------------	--	--	--

	<p>5-3.2 人材育成・労使関係分野</p> <p>5-3.21 フル・スケール OJT で成果をあげる</p> <p>5-3.22 IRP 事業で活発に活動がなされる</p> <p>5-3.23 移転技術成果の独自活用による企業指導能力が高まる</p>	<p>C/P 養成計画書、C/P 養成実績報告書、フル・スケール OJT 実績報告書</p> <p>新規顧客獲得報告書</p> <p>FTPI、C/P、顧客へのインタビュー</p> <p>IRP 活動実績報告書、政府 FTPI、C/P へのインタビュー</p> <p>政府、顧客へのインタビュー</p>	<p>5-3.21 フルスケール OJT は C/P の総合的なコンサルテーション技術の向上と顧客企業の現場での総合的な生産性向上に貢献し、大きな成果を上げた。計 10 社で実施。</p> <p>5-3.22 IRP 事業での活動は活発に行われた。</p> <p>5-3.23 移転された技術は、C/P に定着し、提供されたマニュアル等の教材は今後の C/P 達自身の手による自己技術向上のために非常に有効であり、両者の移転技術の活用により企業指導能力は高まる。</p>
--	---	---	---